

カトリック

# 広島教区報

No. 117

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介神父

「点訳版」あります。  
お問い合わせください。

広島市中区鞆町4-42  
広島司教区内  
TEL (082) 221-6017

## 「福音宣教の熱意・手段・表現」を新たに ― 教皇フランシスコの訪日を機会に ―

広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教



白浜司教

### 教皇フランシスコ の訪日を機会に

ちようど一〇〇

年前（第一次世界  
大戦直後）に、教  
皇ベネディクト

十五世は、福音宣  
教に関する使徒的

### はじめに

皆さんもご存じのように、毎年十月の最後から二番目の主日は「世界宣教の日」と定められています。これに加えて、教皇フランシスコは、今年の十月を「福音宣教のための特別月間」とすることを意図されました。この特別月間を記念して、広島教区においては、今年の十月二〇日「世界宣教の日」に、それぞれの小教区で「福音宣教のための特別月間ミサ」を一斉におこなうことになっています。

書簡『マキシムム・イルド』を發布して、教会があらゆる利害関係を拒み、「聖なる生活と善行を通して、主イエスがより広く告知され、イエスの愛が広まることこそが、宣教活動の目的」であることを思い起させました。この一〇〇周年を記念して、教皇フランシスコが「福音宣教のための特別月間」を制定された目的は、「諸国民への宣教」に対する新たな熱意と推進力を、現代の教会に加

えるためです。また日本の教会は、今年十一月下旬に、教皇フランシスコの訪日という恵みの時を迎えます。わたしたちは、この歴史的な出来事を神の恵みの追い風として、福音宣教の熱意を新たにする機会にしたいと思えます。

### 福音宣教の三つの領域

二〇一三年に、教皇フランシスコが公布した使徒的勧告『福音の喜び』は、現代の教会が取り組むべき新しい福音宣教の重要な指針となるものです。この中で教皇が、「新しい福音宣教は、すべての人に呼びかけられており、それは基本的に三つの領域で」実行されるべきであると述べていることに留意したいと思います。第一の領域として「定期的な共同体に参加し、主の日に集まって、みことばと永遠のいのちのパンで養われる信者」、また「頻繁

司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き  
世界平和記念聖堂関連  
J-CaRM  
地区・海峡からの風・一粒会  
青少年・ひと粒

一〜三面  
四面  
五面  
六・七面  
八面

## じゃけえのう

広島に異動して一年が経ち、誕生日を迎えた今年五月「カープ女子になる！」宣言をさせていただきました。もう「女子」という年齢ではありませんが、心意気は「女子」ということでカープファンの仲間入りです。私は北海道出身で、今でも日本ハムファイターズがありますが、子どもの頃は地元球団を応援することが出来ませんでした。高校も女子高でしたので、高校野球地区予選の時期には、寂しい思いをしていたのを思い出します。そして岡山に進学し広島の方々に会うことが増える中で、燃えるようなカープ魂に触れ、圧倒されながらも羨ましく思う経験をしました。それから月日が流れ、広島県民となる機会を得て、やっと念願叶いカープ女子宣言をさせていただきますのでした。

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

この宣言をさせていただきます  
(援助修道会 橋本 晶子)

に礼拝には参加しなくても、強くて誠実なカトリック信仰を保ち、さまざまな

かたちでそれを表す信者」です。第二の領域は、「洗

礼を受けながらも洗礼の要求することを実行してい

ない」人々で、「教会への心からの帰属感をもっていない

」人々です。そして第三の領域は「イエス・キリス

トを知らない」人々、また「拒み続けている」人々で

す（『福音の喜び』十四参照）。

わたしたちは、第三の領域の人々への福音宣教に励

むために、第一の領域の人々が福音宣教の熱心な担

い手となり、第二の領域の人々、いわば教会から離れ

ている人々が「回心して、信仰の喜びと福音にかかわ

りたいという願いを取り戻すよう」努めることも大切

です。『福音の喜び』が提示しているこのような福音

宣教の総合的な視野を再確認しながら、教会共同体が

一緒に力を合わせて、新しい福音宣教に励む決意を新

たにしたいと思えます。

### 「教会から離れた」(?) 青年の司牧

大阪教会管区(名古屋教区、京都教区、大阪教区、

高松教区、広島教区)の第十二回司牧者研修会が「青

年に聞く」というテーマで、六月十八日(二〇日、

大阪梅田教会(サクラファミリア)を会場にして開催

されました。教会に青年の姿が見られない現状を打

開していくために、各教区から青年司牧の現状の報告

をしていただいた後、各教区の青年の方々(一名(二

名)から、直接「生の声」を聞き、多くの気づき、問

いかけ、励ましをいただきました。さらに、「寄り添

いを考える会」・「不登校生食堂」の代表である広

田悠大さんの講話、また昨年、青年司牧をテーマとし

た世界代表司牧会議(シノドス)に参加した札幌教区

の勝谷太治司教様からその報告を受けて、グループ別

の分かち合いをおこないました。そして、この分かち

合いをまとめた文書「大阪教会管区の皆様へ」管区司

牧者に対しての呼びかけと

青年たちへの表明」が採択されました。青年が教会から離れたのではなく、青年に対する配慮が欠けていた教会の方こそ青年を引き寄せる魅力がなく、青年から離れてしまっていたという反省がなされています。

現代の教会における青年司牧は、わたしたちが取り組まなければならない新しい福音宣教のための重要な課題の一つであると同時に、これは青年司牧の担当者だけでなく、教会共同体に属するすべての人の意識の変化と協力を必要とするものです。そのため、上記の文書を、今回の「広島

## 教区の動き

平和の使徒推進本部

### (二〇一九年度(第一回) 広島司教区宣教師司牧評議会 開催)

去る六月八日(土)、

二〇一九年度第一回広島司教区宣教師司牧評議会(以下、教区宣教師評)が、広島

カトリック会館多目的ホールで開催され、白浜司教、

司祭、修道者、信徒の二十七人が出席した。教区宣教師評は、白浜司教からの二〇一九年度最初の教区宣教師評です。新しい年度を迎え、教区の発展を願って活発なご意見をお願いいたします。」という挨拶と、祈りから始まった。教区宣教師評は、まず「津和野の証し人の列聖調査開

教区報」とともに皆さんにお届けします。是非、各小教区でこの文書を分かち合い、どんなに小さなことでも、自分たちにできることを始めるきっかけにしたいだければ幸いです。

### おわりに

『福音の喜び』(十五)

で述べられていることを要約して、結びに代えさせていただきます。宣教活動は、今日でもいまだに教会にとつてもっとも大きな挑戦であり、第一に留意しなければならぬことです。…もはやわたしたちは、受け身の態勢で教

会に人が来るのをただ待つているわけにはいかないのです。「単なる現状維持を目的とした司牧から積極的に宣教する司牧へ移行」していくことを、今後のわたしたちの姿勢として取り組んで行きたいと思いま

司祭、修道者、信徒の二十七人が出席した。教区宣教師評は、白浜司教からの二〇一九年度最初の教区宣教師評です。新しい年度を迎え、教区の発展を願って活発なご意見をお願いいたします。」という挨拶と、祈りから始まった。教区宣教師評は、まず「津和野の証し人の列聖調査開

二〇一九年度「教会へのチャレンジ」三年目(隣人

聖書通読・写経キャンペーン 完了者紹介

写経を完了された方  
 第0003号 篠田 清子 様 (祇園教会)  
 第0004号 田淵 恵子 様 (廿日市教会)  
 2018年から開催中の通読・写経キャンペーンに皆さんもご参加ください。

会に人が来るのをただ待つているわけにはいかないのです。「単なる現状維持を目的とした司牧から積極的に宣教する司牧へ移行」していくことを、今後のわたしたちの姿勢として取り組んで行きたいと思います。

始について」「召命促進委員会」「カテキスタ養成委員会」「世界平和記念聖堂保存活用委員会」「平和行事実行委員会」「災害サポートセンター」「百年史編纂委員会」からの報告、各地区、協働体、各地区修道女連盟からの報告と続いた。

議題としてまず、二〇一九年度「教会への





教区宣教司牧評議会の様子 広島カトリック会館

に仕える使命〜について、  
 ①教区での取り組みとして、教区内のボランティア団体とのつながりを整備していく。  
 (カリタスジャパン、教区災害サポートセンター、カリタス広島、各種ボランティア団体など)  
 ②「教会へのチャレンジ」の最終年にあたり、信徒の高齢化、減少にともなう教会活動の衰退、これまで続けてきた小教区の教会活動が困難な状況を踏まえ、小教区の組織の簡素化、少人数で教会の三

- ① 二〇二〇年四月から  
二〇二一年三月まで  
『いのち』(神との関係)
- ② 二〇二二年四月から  
二〇二三年三月まで  
『環境』(自然との関係)
- ③ 二〇二三年四月から  
二〇二三年三月まで  
『平和』(隣人との関係)

### 平和の使徒となろう



### 平和の使徒推進本部

重の使命(祈る、伝える、仕える)に対応する必要性を重視していく。  
 続いて、二〇二〇年度から三年間の「社会へのチャレンジ」の一年ごとのサブ・テーマについて、教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』(ともに暮ら

す家を大切に)を土台として、次のように決定した。  
 ① 二〇二〇年四月から  
二〇二一年三月まで  
『いのち』(神との関係)  
 ② 二〇二二年四月から  
二〇二三年三月まで  
『環境』(自然との関係)  
 ③ 二〇二三年四月から  
二〇二三年三月まで  
『平和』(隣人との関係)

また、現時点では、具体的な訪日の日程は未定のため、公式発表後、準備委員会の再開を検討する。次の議題として、  
 「二〇二〇広島教区代表者会議(以下、代表者会議)」に向け話し合いが

なお、サブ・テーマは決まったが、これから教区として、地区として、小教区としての取り組みをどのように具体化していくかは、今後の課題である。  
 但し、テーマに沿って「何かしなければいけない」ではなく、今、おこなっている活動をテーマに関連づけて意識してみることの大切さが指摘された。

**2019 平和行事**

**平和の糸をつむぐ**  
 ～「平和アピール」をいただいて～

**8/5** 13:00～  
 4人の司教によるパネルディスカッション・祈祷あり  
 広島被爆証言・平和祈り・聖歌隊あり  
 イーヴス・アショアとは何か?  
 沖縄はいま～わたしにもできること～  
 青年プログラム/祈りの意い(平和記念公園)  
 平和行進(平和記念公園～世界平和記念堂前)  
 平和祈願ミサ・平和祈願あり

**8/8**  
 長崎原爆犠牲者追悼ミサ・祈祷あり  
 場所: 世界平和記念聖堂  
 広島駅前より徒歩15分  
 広島県立の聖堂より徒歩10分

**8/8**  
 宗徒会平和の祈り(平和記念公園)  
 原爆・すべての戦争犠牲者のためのミサ・祈祷あり  
 お話・ひとり芝居「もうひとつの戦争～ガマの中で見たこと～」  
 ～沖縄戦の証言より～  
 世界平和記念堂聖堂内/スピリチュアルコンサート  
 ※8月5日～6日まで、沖縄の写真展と絵本の展示・西日本童謡合唱隊の寄贈  
 東京キタリアホールで行っています。

**カトリック広島司教区・平和行事実行委員会**  
 730-0016 広島市中区福町4-42 TEL:082-221-6017 FAX:082-221-6019

2019平和行事のポスター

おこなわれた。  
 代表者会議に向けた準備は、今年五月に代表者会議実行委員会(第一回)が発足(平和の使徒推進本部員が兼ねる)、同月、代表者会議準備会(第一回)が発足し、そこで準備された代表者会議の全体概要をイメージしたロードマップ(案)が示された。  
 ロードマップ(案)の内容については、出席評議員からの意見を求めた後、本教区宣司評で了承された。今後、必要に応じて加筆修正、補足説明の作成を行

い、今年十月二十日(日)の教区一斉の「福音宣教のための特別月間ミサ」の中で宣言される代表者会議開催宣言に併せてロードマップを示す予定で準備される。  
 教区宣司評の終盤は、「ボランティアアンケートの活用について」他、出席評議員から色々な報告、諸連絡があった。  
 以上が話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間半の教区宣司評を閉会した。

以上が話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間半の教区宣司評を閉会した。

重要文化財 世界平和記念聖堂  
保存修理事業、最終的な段階へ

司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の保存修理事業は、八月末の完工に向けて最終的な段階に入った。四月以降の主な工事は、耐震工事のために取り外していた小玄関の天井などの復旧、鐘塔や拱廊（側廊の二階）内の壁の補修、平和の鐘の塗装、聖堂内の床の亀裂補修、身廊のシャンデリアなど照明器具の取り付け、聖歌隊席の床の補修・補強、木製建具の取替え、玄関倉庫などの内壁の塗装工事、信者席の劣化補修、玄関前の雨水が溜まる敷石の段差調整などであった。身廊内の放送設備、マリア小聖堂の空調設備、鐘塔一階階段周りの路面復旧工事などにも着手する。また、保存工事のために使っていた駐車場は、工事着手前



補修のため分解されたシャンデリア

けではないので、安全で快適な利用に協力してください。なお、聖堂の前庭への駐車は禁止となります。天井から吊り下げられている聖堂内のシャンデリアは六十年余が経過し、電線及び電線管の老朽化とハスの花を象った真鍮の花弁が大きく変形、変色する心配があるため分解修理を行なった。普段は高所にある為、シャンデリアを身近に見ることができない。取外したこの機会に、四月十四日にカトリック会館多目的ホールで公開展示した。精巧で遊び心いっぱいの美術工芸品を目の当たりにして、多くの見学者から感嘆の声が聞こえた。今後は、地震対策のために天井に固定され、目の当たりに見ることができなくなる。このことも含めて、記念聖堂を後世に伝えて行くために、保存修理の記録を保存し、公開することが必要である。

今回の文化財修理事業は、ひとまずこれで終了する見通しとなったが、補助金の対象とならなかった小聖堂の空調設備や信者席の椅子の補修、放送設備の更新などで事業費

の状態に復旧する。駐車できる車の台数が増えるわけでは

が増え、教会の費用負担が増える結果となった。教区の皆様には、広島原爆の証言者でもある司教座聖堂の維持・保存のために献金など、ご協力・ご理解を引き続きお願いします。なお、完工記念ミサ、記念イベントを九月十六日（月）、十月五日（日）に行う予定です。詳細が決まり次第、教区報などで、お知らせします。

世界平和記念聖堂  
耐震補強工事  
資金集めについて

二〇一六年から始まった聖堂工事は、全工程の九割方完了しました。今年の平和行事は、きれいになり冷房が効いた聖堂で行うことができます。

工事の予算は約十億円で、公的補助があるので三割ほどが教会負担でしたが、空調設備の追加などにより教会負担が増えてしまいました。広島司教区としては、聖堂補修資金を持っていないため、教区民の皆様には聖堂保存献金をお願いしました。小教区の中には、献金箱を置いて集めている熱心な教会もあり、皆さまからの振り込み等で徐々に集まってきてはいますが、必要



聖堂の屋根の銅板を加工して作られたペンダント

びた銅板を使い手作りしているので、一個ずつ色合いやデザインが異なり、味のある品に仕上がっています。九月十六日の教区の日や幟町教会の行事で販売します。パウロ書院にも置いてありますので、ぜひお買い求めください。遠方の方は、教区事務局にお問い合わせください。

格 \* 聖堂グッズ（税込み価格）

クリアファイル（内陣・外観）各二五〇円／聖堂絵葉書（四枚セット）四〇〇円／記念ペンダント、ブローチ 各三千円／献堂五〇周年記念誌 五百円

世界平和記念聖堂募金

郵便振替口座

口座名義：カトリック広島司教区

口座番号：01320-3-109791

\* 通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。



J-CaRM 広島便り

**岡山教会におけるベトナム人共同体**

ヘトロ ホアンドウク ロイ 神父

岡山・鳥取地区におけるベトナム人共同体は約三五〇名以上、その中でもカトリック岡山教会には、二五〇名位が集まっています。共同体は様々な職業分野における技能実習生と日本語学校・専門学校・大学・大学院・博士課程などに在籍する留学生、経済社会に就業しているエンジニア達、主婦などの社会人です。岡山教会での特徴的な活動は、第一日曜日 ミサ後、ベトナム料理を日本人の信徒の方々に提供。第二日曜日は、午後三時からベトナム語ミサ。ミサ後、茶話会とミーティング。第四日曜日は、休日がとれた者は「み心の家」(※後記をご参照ください)に集合。果実と畑地の農作業、地域の清掃の後、ミサ。メンバーの生活状況により、前記の活動に参加できない信徒は、毎日曜日に、日本人と一緒にミサに預かりますが、日本語の理解が十分でない信徒は、聖体拝領を遠慮して司祭からの祝福のみ頂いて帰ります。毎週日曜日、ミサと昼食後、日本人ボランティアによる無料の日本語教室が開かれ、日本語を学習する者二十名前後。(※水島教会では週日の

夜、勉強会があります。)  
特筆すべきは、J-CaRM・ユニティ岡山鳥取の中村氏とベトナム人八名が中心となり、在留期間がまちまちの諸外国人ため、彼らが帰国後、日本での就労期間中に収めた各種の税金を還付できる手続きを指導していることです。「申請しなければ還付されない税金」の知識は諸外国からの就労者が増加する現在、多くの日本人信徒も共有して、交流ある機会に外国人就労者に進言して頂きたいと期待します。



ゆかたを着て記念撮影

毎年八月十五日の聖母の被昇天の祭日には、「ゆかたデー」と称して若い男女の外国人が、夏のものである「ゆかた」を、岡山教会の「お母さん」方に着せてもらい、またお化粧も

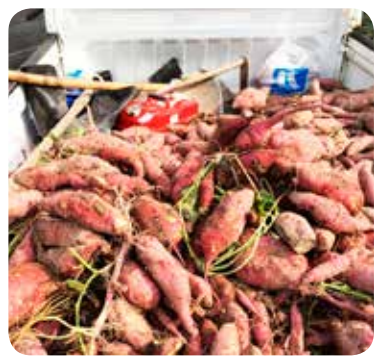
してもらって、聖母像を掲げながら、教会の付近をともに歩きます。  
私が係わる責任ある仕事として結婚準備講座があります。現在、岡山・福山教会では、三十八カアップルが結婚講座を受けています。結婚直前になって学ぶカッパルもいるため、指導の時間を捻出する難しさがあり、相当忙しいですが、信徒の信仰生活の充実と幸福な結婚生活を願ひ、気持ちを引き締めて指導に当たっています。

日本人かベトナム人のどちらかが未信者である場合の「成人洗礼」と新生児の幼児洗礼も増えています。忙しい一方で、こうした大きい喜びを味わうことも増えています。  
日本人との生活面での交流が多くなると、ベトナム人のみならず各国の信徒たちは、互いに助け合い、母国と日本双方の文化、教育、福祉に関する知識を獲得し、人間として成長するための「つどい」と学び、とりわけ信仰を深めるため、集まり語り合い、食事を楽しむ場所が切実に必要となつていきます。  
各教会施設の利用に寛大なご理解をいただきたいと常に願ひ、こうした目的のためにご提供いただける日本人のご家庭や、公共施設の情報を、お寄せいただけるよう、心からお願ひいたします。

**\*「み心の家」**  
三年前岡山教会信徒の長門桂子様より、ご自身の所有地である岡山県赤磐市神田の土地をベトナム人の共同体が使用するご許可をいただきました。ベトナム人共同体建設は、日本で初めての試みです。

私が責任者となり、日曜日に休日が取れるベトナム人信徒は、神田に集まり、背丈ほどの雑草刈りから始め、当初はクワやスキの手作業で土地を耕し、水を引き、種芋を植え、各種の野菜の種を蒔き、雑草と戦いながら畑地を豊かにしてまいりました。そして、長門様の篤実なご理解のもと、食事を共にし、ミサを捧げることのできる家を「み心の家」と名付けました。  
「み心の家」では、朝早くには、ブドウ・モモ・柿・しいたけなどの栽培場所の草刈、剪定、土の管理などをします。野菜畑の農作業なども手分けをして行います。月一回は、神田地区の日本人に加わり一緒に、周辺一帯の掃除を行います。若者の力は、とても喜ばれています。午後三時からベトナム語ミサを捧げます。

理解者が増え、中古品ですが、耕運機も入手できました。農産物の収穫も増えて、共同体の集まりの日には料理を楽しみ歌ったりして、思いっきり母国語を用いて、リラックステして楽しめます。日本の国策として、さらにベトナム人ほか各国の信徒も増加する傾向にあります。未来のため、イエス様を信じる者たちが「新しい風」となり、力強く、謙虚で誇り高い人間として、日本社会で働き信頼されるように祈ります。「み心の家」の果たす役割はこうした希望を満たす本当に大きい働きを有しています。



みこころの家で収穫したサツマイモ

以上、まだまだ、初めてのころみばかりで、途中経過のご報告ですが、これからも、多くの方々のご理解とご支援を得られるように、メンバーとともに頑張ります。どうぞ、一層のご理解とご支援をいただけますようお願い申し上げます。

地区便り

山口島根地区

告 \*隣人に仕える使命」研修会報告



研修会の様子 中央に白浜司教と肥塚神父

六月十五日(土) 山口天使幼稚園ホールで、白浜司教様が講師に迎えて本年度の教区テーマを学び考える研修会を開催しました。山口島根地区各教会から約百二十名の参加者があり、盛況のうちに開催することができました。

午前中は、白浜司教様が教会に与えられた三つの使命、①すべての人の救いを祈る使命、②福音をのべ伝える使命、③隣人に仕える使命について、聖書の言葉を引用しながら分かりやすくお話しされました。

午後は、司教様のお話をもとに八つのグループに分かれて分かち合いをしましたが、どのグループも楽しく分かち合うこと

ができ、有意義で楽しい一日を過ごすことができました。

(彦島教会 福永 孝章)

\*萩市イーゼス・アシヨア配備の撤廃を求める集会

去る六月十五日、サンライフ

萩において「萩の街から東アジアに虹をかける」署名でつながる平和の輪」が開催されました。広島教区も共催の集会でした。現在、萩市にイーゼス・アシヨアを配備するという計画があり、地域住民は、なぜ萩に配備されるのか？住民の生活に影響はないのか？といった疑問をいだいています。集会では、ジャーナリストで評論家の前田哲男さんが、それらの疑問について解説をされました。住民の会の森上雅昭さんは、防衛省による住民説明会での説明が不十分で、信頼できないと訴えられました。お話を伺いながら、攻撃目標となる施設を作ることの持つ攻撃性について思いめぐらしました。「軍備の均衡が平和の条件であるという理解を、真の平和は相互の信頼の上にしか構築できないという原則に置き



前田哲男さん

換える必要があります。」(ヨハネ二十三世回勅「パーチエム・イン・テリス」六十一) 広島教区内での動きとして、関心を持ち続ける必要があると思います。

岡山鳥取地区

\*「平和アピール1981」記念行事

岡山鳥取地区二〇一八年度の教皇ヨハネ・パウロ二世「平和アピール1981」記念行事は、鳥取教会が会場ということで、天候を考慮し、五月十九日に開催。日本海側からは鳥取、倉吉、米子、松江、他に岡山、水島からの参加者が、平和に関して分かち合いました。

日程は平和祈願ミサの後、講演会第一部、昼食をはさんで、講演会第二部。講演会の講師は山口道晴神父様(鳥取教会)、テーマは「キリストの平和を求めて」―旧約聖書に見られる人間の弱さと思いがかり―。「ヘブライ人の奴隷からの解放は、まさしく多神教からの解放でした。今、私たちは多くの物、人間的な思いの奴隷になっていて、そこから解放されなければ平和に到ることができません。キリストの平和を学ぶこと、絶えず練習が必要です。」との言葉を心に刻みました。

海峡からの風 53 下関労働教育センターだより

ヒロシマ・ナガサキの抑止力、民衆の抑止力

山口島根地区の小教区を行脚していく社会教説、今年は何回『ラウダート・シ』を用いながら、環境問題に焦点をあてています。

どうしても足を向けなければならぬと思っていた水俣を、石牟礼道子さんの『苦海浄土』を手に訪ねました。人々に出会い、話を聞き、水俣と福島の問題の構造が重なることがわかりました。政府は企業の肩を持ち、都合の悪いことは隠蔽するということ。そのために被害はどんどん広がってしまうという。そして、私たちは歴史の教訓からきちんと学ばないままに、原発政策の推進と福島の事故をゆるしてきてしまいました。

は、建設予定地である阿武町の豊かな湧き水と緑の深い大自然の地を見て確かめたのち、講演では、アメリカを守るために売りつけられるミサイル基地を建設し、大自然を破壊する政府の計画の背景にあるものを教えてくださいました。

「核の抑止力ではなく、ヒロシマ・ナガサキの抑止力、民衆の抑止力というものがあると信じます」という先生の言葉に勇気づけられました。広島、長崎の原爆以降、核兵器の使用が一度もないことは「核の抑止力」によるものだと言った専門家はいない。しかし、論証することは決してできないけれど、それは原爆で亡くなった人々の思い、それに連なる核をゆるさない民衆たちの抑止力のおかげではないのか。

水俣の被害者たちに寄り添った石牟礼道子さんは死者の声を聴き、文章に表現できる人だったと聞きます。そして、長崎で活動されていた前田先生も、亡くなられた人々が背中を押してくれるとおっしゃっていました。イエス・キリストの十字架の記憶を大切に私たちが教会は、その大事な使命を分かちあっているのだと思います。

(中井 淳 神父)



広島地区

\*聖母行列と国際ミサ

五月十二日に東広島教会で聖母行列を行いました。主日のミサの三十分前に聖堂で祈りの後に出発。教会のとなりにある池のまわりを一周しました。ロザリオの祈りを各国の言葉で唱えました。一連は日本語、第二連はベトナム語、第三連は英語、第四連はポルトガル語、第五連は日本語です。ミサは司教様の司式で国際ミサです。朗読と共同祈願を各国の言葉でおこないました。共同祈願にはタガログ語も加わりました。拝領の歌はベトナム語の歌とサキソフォンの独奏。オルガン以外にギター、サキソフォン、フルートの演奏が加わりとても多彩で盛大なミサになりました。

近隣の教会からも大勢の若者が参加して、百五十人くらい集まったと思います。



聖母行列の様子

第20回大阪教会管区司牧者研修  
「青年に聞く」  
青年とともに歩く道

第十二回大阪教会管区司牧者研修会が六月十八日より三日間、サクラファミリア（カトリック大阪梅田教会）で開催されました。研修会には各教区を代表し十名の青年が招かれ、五教区の司教に加え昨年のシノドスに参加された札幌教区の勝谷司教、そして約百四十名近い司祭、修道者が参加しました。この三日間は、昨年のシノドスでも重点が置かれたように回心の旅路であったと同時に、青少年との関わりが希望に満ちたものであることを再認識する時であったと思います。

最初に各教区より、青年活動の現状報告があり、続いて青年たちの声に耳を傾けました。広島教区からは、授業や仕事の合間を縫って二名の青年が参加し、山口地区からはスカイプにて地方の現実を伝えるために声を届けてくれたことに感謝しています。

また「寄り添いを考える会」代表を務める廣田悠大氏が「令和時代の青年像とサードプレイスとしての教会」というテーマで、現代青年が抱える悩みや課題を分析し、教会がどのように青年たちに寄り添えるのかにつ

いて講話をいただきました。ファーストプレイスである家庭、セカンドプレイスである学校や職場、そのどちらでもないサードプレイスが、青年たちが求める「居場所」であり癒しの場所になる可能性について強調され、その役割を教会が担うアイデアが提案されました。

これらの声を聞きながら、教会の「こうあるべき青年司牧」から、エマオの弟子たちと共に歩くイエスの姿が浮き上がってきたと思います。教会には姿を見せない青年たちもSNSなどではつながりを持つており、「デジタル大陸」に存在していることも勝谷司教から示唆があり、新しい青年司牧の地平が広がられる思いでした。

三日間にわたり、聴き合い分かち合う中で、最終日には、管区全司牧者に対しての呼びかけと青年たちへの表明文書が作成されました。この文書には、青年に向き合うことで感じる葛藤や恐れを越えて、司牧者とともに繋がり、協力しながら青年たちとともに歩むことの希望が表されています。青年は「教会の未来ではなく現在です」とシノドスでも述べられているとおり、一人ひとりの青年の大切な人生の識別の段階に、私たちも寄り添いながら福音の喜びに触れていきたいと思えます。

（援助修道会 橋本 晶子）

広島教区一粒会

神学科二年

安坂 通景 神学生



広島教区の皆様には常日頃から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。私、安坂通景は、去る二月十七日に助祭・司祭候補者認定式を受け、神学科一年に進級することができました。神学科では、四年間の養成期間が用意されており、司祭叙階までの道のりは、まだまだ長くて険しいものとなっております。今後ともよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

私は、広島県の三原市で生まれ、そこで育ちました。家の宗教は、浄土真宗であるため、キリスト教とは縁のない日々を過ごしておりました。そんな中、高校生の時に大きな挫折を経験し、それがきっかけとなり、カトリック教会を訪れました。キリスト教とはまったく無縁の人生であっ

た自分が、こうして神学生として生活しているのは感慨深いものがあります。私は決して自分の力だけで生きていくのではなく、誰かによって生かされ、誰かと繋がっている存在なのだと思えて気づかされます。

さて、神学校での生活も三年目となりました。哲学科が終わり、いよいよ神学の授業が始まっています。神学の授業はどれも魅力的であり、新たな学びと発見の連続です。神学校での学びが将来の司祭職の糧となるように精進してまいります。また、三年目ともなると、生活にも慣れてきます。しかし、慣れに甘んじることがないように注意しながら過ごしています。慣れによって、祈りもミサも当たり前なものとなってしまい、何も考えずにできるものになってしまっています。「初心忘るべからず」という言葉がある通り、神学校に入學した頃の謙遜で真剣な気持ちを再び取り戻さなければと感じております。惰性に陥ることなく、日々新鮮な気持ちで神学校の生活を大切にしていきたい所存です。

# 青少年の活動

皆さんこんにちは！  
青年会です！

だんだんと暑くなってきました。体調のほうはいかがでしょうか。



「司祭叙階・銀祝を祝って頂いて  
ありがとうございます」

岩国教会主任司祭

ステファノ 福田 誠二 神父

教区事務局長の服部神父さんから「今年は福田神父さんの銀祝ですよ」と言われるまで、恥ずかしながら、私は修道会に属していましたので、誓願から何年という認識しか持っておらず、自分の司祭叙階二十五年を完全に失念していました。この度、皆様に祝って頂いて本当にありがとうございます。

私は大学卒業後、ある企業でエンジニアとして働いていましたが、入社三年目にグループで研究開発した新製品の機械が事故を起こし、その原因究明と対策に当たりました。



帰国してから、主任神父様の勧めに従って私は四つの修道会と一つの教区を訪問し、フランシスコ会に入会し、聖アントニ

さて、そろそろ八月五日、六日で行われる平和行事が近づいてきました。今年の私たちのテーマは、  
幟町教会内の架空の駅  
です。この駅には平和行事グッズを売っているお店が

あり、また、平和について考えることのできる催しが行われています。今年のお店では、平和をわかりやすく表現したい、そして教会行事だけでなく普段からつかえるようにという思

いから、キャップとサコッシュを売っています。このキャップとサコッシュは普段使い出来るよう、デザインにもこだわっていますので、ぜひ一度立ち寄ってみてください。また、とても

た。独身寮で眠っている時間と教会でミサに与っている時間以外のすべては仕事をしていました。研究をどのように進めていくべきか方向性が分からず、その苦しさを紛らわすため及び解決のヒントを探すために聖書や哲学書や神学書を読んでいるうちに四年が経った頃にすべてが解決されて終わっていました。燃え尽き症候群なのか、エンジニアとしての仕事ももう手につかず、哲学や神学をもっと勉強したいと思うようになりまし

た。オ神学院で神学の生活を始めました。八年後の、司祭叙階一か月後にトマス・アクイナスと並ぶ中世の重要な神学者ヨハネス・ドゥンス・スコトゥスの神学を研究するためにドイツのミュンヘン大学に派遣されました。ひたすらラテン語を読み、熟考し、文章にする毎日でしたが、七年目に入つて、突然、指導教授から「これでいいでしょう。まとめて提出しなさい」と言われて博士論文が完成し、日本に帰国できました。

人神学者ハンス・キュンクがその博士論文『カトリックとプロテスタントの義認論の比較研究』においてカトリック側の義認論の代表としてヨハネス・ドゥンス・スコトゥスの恩恵論を取り上げていることに気づきました。それで、それ以降、ハンス・キュンクのエキュメニカル・諸宗教対話神学の研究に着手しました。

日本では、まず、聖アントニオ神学院で哲学、霊性、神学の講義を担当し、次いで清泉女子大学、白百合女子大学、聖母大学、上智大学、聖マリアンナ医科大学等でキリスト教に関する講義を担当しました。その間、中世のヨハネス・ドゥンス・スコトゥス神学の現代神学への影響を調べているうちに、現代のカトリック神学者の中ではスイス

様をお願いして私の故郷の教区でもある広島教区に來させていただき、現在、岩国教会におります。同時に毎水曜日の夜と木曜日の午前に幟町教会でカトリック司祭方、プロテスタントの牧師さん方、そして様々な教会の信徒の皆さんとエキュメニカル・諸宗教対話神学研究会を行っています。今後ともよろしくお願いたします。



広島地区青年会メンバー

暑いと思われるので何か冷たいものも準備できたらいいなど考えています。  
私たち青年会は、どなたでも幟町教会内で少し立ち止まっていけるようなあたたかな空間を作りたいと思っておりますので一度この駅で下車してみませんか？  
青年会一同心からみなさまをお待ちしています。  
広島地区青年会  
(大学一年 原 世理奈)



「戦争は人間のしわざです」あれから三十八年、教皇フランシスコはどのようなメッセージを携えて訪日されるのか期待が膨らむ。